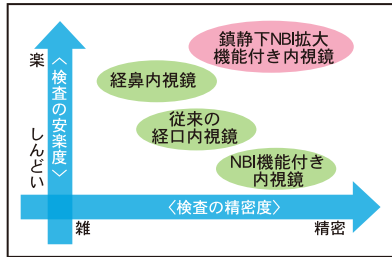


メディカル vol.5
最前線!

消化器内視鏡センター

苦痛なく確実な検査で
胃ガンの早期発見・早期治療!

心
最高の
設備 技術
最前線医療を行う



内視鏡カメラは、口から挿入する経口タイプ、鼻からの経鼻タイプがある。経鼻タイプのおう吐反射はやや軽いものの画質やズーム機能が未整備の上、操作にも神経を使う。その

高い精度と安全性、
痛みを伴わない鎮静下内視鏡



センター長 塩谷 淳
「身構えてばかりいると手遅れになることも！」
も短い時間でより的確な診断ができます」と塩谷先生。

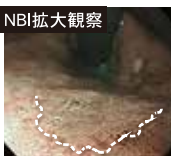
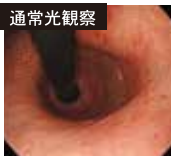
内視鏡カメラの有効性をわかっただけで、一度でもつらい思いをすれば、消極的になるのが普通。「そこで当院では、患者さんの負担を大幅に軽減できる内視鏡検査を導入しています。最新鋭のハイビジョンカメラを用いた鎮静下内視鏡検査は、精度も高く、私たち医師は従来よりも短い時間でより的確な診断ができます」と塩谷先生。

安心安全でカラダに負担をかけない内視鏡検査

胃 ガンは、日本人のガン罹患率で第1位、ガン死亡原因で第3位（肺・大腸に続く）。内視鏡切除可能な早期（ステージⅠ期）に発見できれば、5年生存率は97%、だが多臓器に転移した場合（ステージⅥ期）の生存率は10%未満に。だから早期発見が最も重要なのだが、ステージⅠ期の胃ガンは無症状だ。そこで早期発見に有力で確実な内視鏡検査について、西の京病院消化器内視鏡センターで話を伺った。

ため同院では、NBI拡大内視鏡（最大80倍の拡大観察）を導入。これはズーム機能と2つの波長を搭載し、精度の高い観察が可能だ。ただ、スコープの太さが10ミ程度あり、通常のやり方では苦痛が伴うこともそこで同院では鎮静下での検査を実施している。

早期胃ガン症例



点線内が病変部

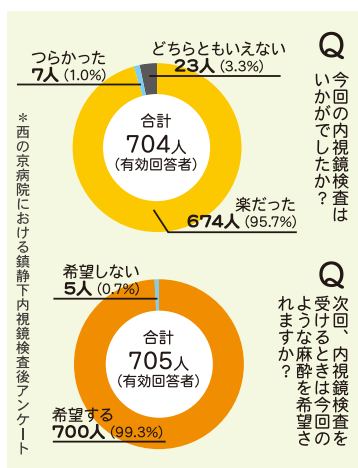
鎮静下とは、麻酔を使った状態のこと。受診者は痛みを感じず、医師も受診者の苦しそうな表情を見ることがなく、診断に集中できるそうだ。この麻酔は効きが早く、醒めた後はすっと消えるタイプなので安心。また大腸の内視鏡検査を続けて行うこともでき、1回の来院で済む。

受診者の声

- 内視鏡への抵抗がなくなりました。
- 飲み込むとき何も知らないままできてよかった。
- 麻酔なしの検査でストレスだったが、この検査は素晴らしい。
- 寝ているうちに、あっという間に終わってよかったです。

4千件を超える実績。
ムダな細胞検査を減らし、
従来検査と同等費用で

一昨年4月からの導入で、同検査は4千件を超えた。そしてその99.3%が次回からの検査も「鎮静下を希望する」と答えた。



医師・松木信之
「胃や腸に自覚症状がある人は保険診療となります。」
無も内視鏡で診て、リスクの予測と予防に役立っている。

最新鋭の内視鏡で開腹しない
短期入院治療も

同院では、最新鋭の内視鏡を使った検査だけでなく治療も行なう。従来は開腹が必要だった手術も、経験豊富な専門医が内視鏡を使い、食道ガン、胃ガン、十二指腸ガンとも体にダメージを与えない治療にあたる。